

刊夕日七月十



定価 一部会費 一元五角 郵費 別
 廣告料 五部十二字 第一行 金五部
 日曜 祭日の 即日 休刊
 発行所 常新日新聞社
 編集者 常新日新聞社
 印刷所 常新日新聞社

念佛とは何ぞ

真繼雲山

【一】

南無阿彌陀佛といふたは極樂へゆけるといふので、念佛を稱へる人が多い。成程それと相違ないので何故救はれるかとの詮さくは救はれるといふ目的のためには無用である。恰もそれは機關車の構造を知らずとも信じて乗れば目的地の驛に到着するやうなものである。しかも初めて汽車を見る野蠻人は、餘ほど旨く得心させねば危険を感じて迂闊には乗らないであらう。文明人が平気で乗るのは無事に到着する事實を信じてゐるからである。

念佛も亦そのやうに爺さん婆さんは無理由に稱へるも、理智に長けた現代人は念佛すれば何故救はれるかの理由を明白にせぬ以上、無條件に稱へぬであらう。念佛して救はれることは理窟でなきも、理窟に反したものであるなら現代人の稱へる筈はない。

念佛には凡そ三段ある。第一段に、昔から念佛は必ずしも淨土教の專賣特許といふではなく、眞言でも天

臺でも禪宗でも稱へて来た尤も聖道の諸教は必ずしも西方に淨土を認める指方立相とは限らず、忌に彌陀ありただ心に淨土ありとして我が心中に佛性を開顯せんことを期する。その念佛を稱ふるは、佛道完成へのそれ／＼の一つの姿である。

第二段に、聖者法然を元祖とする淨土宗の念佛とは佛を念ふ、謂はゆる憶持不

樂行の橋である。

第三段に、宗祖親鸞の開顯せられた絶対他力の念佛とは、當人が稱へるのでなく如來のお計らひとして佛様が稱へさせ下さる、佛様からの下され物、謂はゆる廻向である。碎いて言へば、阿彌陀様が凡夫の心相中にお宿り下されて、凡夫

文藝募集

の口を繕りて稱へて下さる如來の御聲、如來の勅命だといふのである。

蓋しわれ／＼一切群生は眞如の活現として(本願力に備せし)法性眞如の境界(本願海中)に生きてゐるので、その体と界と共々眞如以外のものではなく、その本質は永生であり、無量壽無量光であるゆゑ、六字の名號とは「もと／＼救はれてゐるといふ原理」と見ることが得べく、これを信じて稱ふるは、われ／＼の妄心が、もと／＼純眞なる眞如海中にありたることを發見したる歡喜の禮讚でもある。

- 【朝】味噌汁・玉菜 小皿 やきものり
- 【煮】煮付 いかと焼豆腐
- 【皿】 いかの残肉つくね
- 【揚】 煮蓮根あま酢
- 井御飯(葱と豚肉たき玉子とち)

上田病院

平町 南町
 電話二二九番

難波 内科一般 難波 陸

醫學博士 看護婦募集

平町大町新川端
 電話五〇〇二

諸機械製作販賣

平會館

電話624

田邊製作所

平白銀町(驛前通)
 電話二九四番

機械切各種齒車製作

美味... 新鮮... 東京堂のパン

是非御試食を!

平橋樋小路
 電話一〇八番

徒弟入用

和洋家具 椅子 子

其他裝飾品一般

御用命は迅速に御努め致します

製作販賣 諸官衙 御用達 各學校

平町五丁目四

片寄製作店

電話四八四番

かまぼこ 製造

お惣菜用 さつま揚げ 吉原揚

平町一丁目

不味實

電話一四一番

ラヂオノ季節 月賦販賣開始

先ズ才備へ下サイ

ナ、オラ受信機

詳細ハ御一報次第店員仕御説明申上ゲマス

公認 日東商會

電話四二八

歐洲ノ風雲急 日支モ亦然リ!!!! 早慶戦モ 目前ニ迫ル! 實リノ秋 ソシテ一家 團樂ノ秋!

平町合格者

入營期日

編入部隊決定

平町本年度入營者の編入部隊入營期日は左の如く決定した

- △十二月一日入營近歩
- 鈴木泰久 同 吉田直吉
- △十二月十日近鐵二
- 植頭正 電一鈴木幹男
- 飛七木村正行 歩二九
- 永山勝經 加藤政英 和
- 田光雄 伊藤正雄 仲井
- 秀三 川角幸一 吉成清
- 松本清太郎 野二齋藤定
- 雄 二面真純 山砲一
- 鈴木一夫 輜二辻久次郎
- 榮光雄 歩四眞田朝春
- △十二月十日 歩七六林
- 三郎 朝鮮揮春歩屋島昌
- 澤 △十二月三日
- 關東軍騎二四長谷川圭吉
- 安田義隆 大平富重 △
- 一月十日 横須賀人見四
- 郎 鈴木正勝 淺川忠良

郡体育の

選手一行宿舎

既報来る十一日郡山市安中グラウンドに開催される本縣体育協會主催各部郡支部對抗体育大會に出場する本郡支部選手の一行五十餘名は、愈々十日平發午前十分で篠山支部長其他各係員引

射撃選手

營中で猛練習

既報第一回縣下中等學校射撃大會演進選に相中と共に榮ある出場権を獲得した營中は十一日若松廿九聯隊射撃場に開催される大會に優勝を目ざし猛練習を行つてゐるが出場選手は左の如く出發は十日平發午前八時三十分の豫定である

東北の無盡業代表

けふ平町で總集會

各種の議案を附議

第十二回東北無盡業同盟會定時總會は本日午前十時か、平町第三小學校講堂で本縣知事(代理)平町長(代理)その他町内各種關係團體主腦者臨席、同盟會關係東北無盡業株式會社 宮城共濟無盡業株式會社 盛岡同 岩手同山形同 津陽同 弘前同 會津同 郡山同 湯本各代表者出席して開會、銀行局長、本縣知事(代理)の訓示、來賓の祝辭あつて會務及會計報告に次へて左記の如き議案を附議、畫食後講演あつて閉會した尙出席した。東北無盡業同盟會各代表は午後二時半から市内觀覽

磐女籠球練習

籠球部は来る十七日宮城第一高女コートに開催される東北籠球聯盟主催の東北一般女子選手權大會に出場する事になり石山、新妻の兩教練コーチの下に猛練習を開始したが出場選手は三日中に決定される筈

上遠野座談會

野村農會主催農事講演會は九日午前十時から郡農會柴田技手を招き催すが終つて村内根岸及瀧部落で農業經營改善座談會を開催する

市町長會出席

既報縣下市町長總會は来る十日午前十時から四倉小學校に開かれるが縣からは知事代理東郷地方課長、伏見地方改良主事及び社會課員、商工水産課員が臨席する由

水道委員協議

平水道委員會は八日午後一時から會議室で開き物見岡稻荷神社に對する給水の件其他を附議する

小川滞納差押

小川江筋組合では十年度組合費滞納者下小川村箱崎太郎外二十二名に對し来る十六日午前十時から平團體事務所を競賣を行ふが滞納額は五十六圓である

永戸産業理事

永戸箕輪組合村産業組合では去

月二十六日創立總會を開きこの程左記の如く理事を決定した

- △永戸側 松崎乙丸 草野軍治 葉谷佐四郎 葉谷信夫
- △箕輪側 阿部友次 遠藤齋 高萩正一

平町人事

- △六間門一五當時東京市向島區吾嬬町西四ノ三〇
- △大江傳吉氏四男五郎さん
- △材木町六 瓜田清氏二男慎君
- △五丁目一四 齊藤宇三郎
- △五丁目一四 齊藤宇三郎
- △五丁目一四 齊藤宇三郎
- △五丁目一四 齊藤宇三郎

結婚

- △東京市小石川區柳町三二 濱野英行氏(二八)月見町二七青木喜代さん(二三)
- △檜樋小路一七高島文三郎氏(三六)宮城縣刈田郡白石町治郎氏姪松岡るくさん(二五)

回死

- △田町五六年澤京子さん(一ツ)
- △大町一五 前田慶次郎氏(七三)

市原醫院

平町・田町 電話一四四番

安齊外科醫院

平町・田町 電話四七五番

湯本の堀鑿

動力を使用し 本格的に進行

湯本町探堀鑿委員會は七日午前十時から開き工事促進方を協議した

しか出來ず掘り出した土砂はモッコで運搬する等の極く遅速の方法でやつてゐるため今後は動力を使用し工事の進捗方を計ることになつた

オリズムヒツクの旅

往來途上の印象記

辯護士 松野尾 繁雄

突撃隊ナチスの私兵は背は高低あり、歳は老若不揃而も、一度行進を起すと實に歩調がよく揃つて立派な少年團、少女團、皆同様で

ある。一日の夜九時から十二時迄スタジオオンでマスタームを初めいろ／＼催しがあつた。獨乙自慢のオーケ

ストラ、何千人かの合唱團(何千人と云ふのは、スタンドに立上つた合唱團員は二人だか、三千人だか私には見當がつかないかつた)曲は獨乙が世界に誇るベートーヴェンの第九シムフオニー、音楽の判らぬ私でも承知してゐる、ハルレヤコーラス——これには暗夜

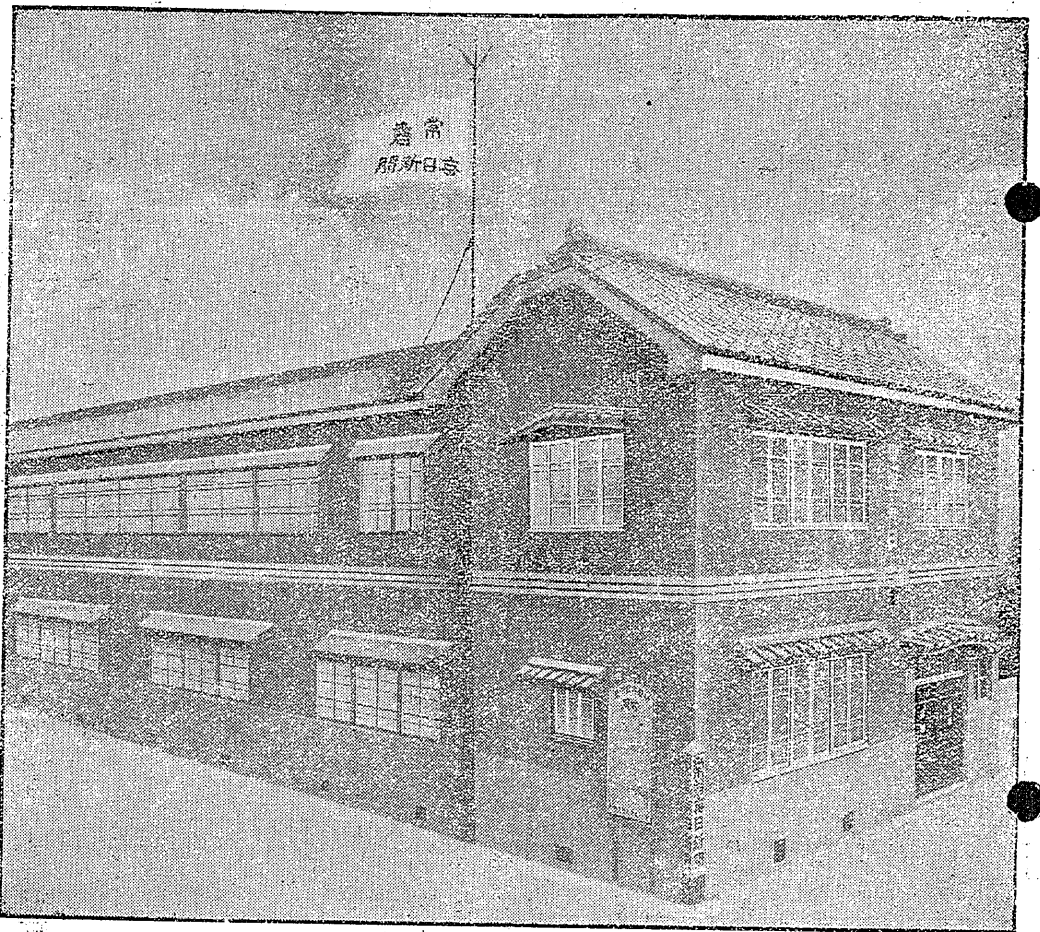
のうちに全スタンドを埋めた十五萬人も、しはぶき一つたてずに全身を耳にして聞き入つたのであつた。

獨乙は國民歌をもつてゐる。ミュンヘンの有名なH B ハウスでビルをのんだとき、一度バンドがこれを奏すると場を埋めた千人を超える連中が、ジョッキ

片手に聲高らかに唱和するのであつた。

非常に勇壯な歌だ。文句は判らないが、さいてゐても自から愉快に、壯快になる。私はこんな國民歌をもつてゐる獨乙人を羨しいと思つた。

工竣築新の屋々社本



本社及び常務毎日印刷株式會社の社屋は七月十六日上棟式を擧げて以來請負者新川町三森己代松氏が極力工を急ぎ此程新築が落成した、同建物はクリトム系茶褐色の外装美々しくコンクリートの總二階建て印刷工場を兼ね採光通風共に百パーセントの効果を奏し併せて内容の充實化と共に従業員の作業能率を倍化するに至り當地方に於ける斯種建物の白眉を以つて任じ長橋町の一角に巍然と聳え立つた素晴らしさは正に一偉觀とするに足るものがあらう。本社は先年新築した編輯室應接室と共に今回の社屋建設後に依り併せて施設の萬全を期し得た以上、今後市制實現を目標とする町勢の進運と其軌を一にし、飛躍發展の準備に全く成り得る新機軸の計劃に向つて突進しつゝ、近く必らず爲すある日を期する喜びを讀者諸彦に願ふとするものである。

炭礦解散に

従業員不穩の形勢

勿來町山木炭礦では全礦區の石炭を掘り盡すに至つたので經營の採算が取れず爲に五日經理人同町山田慶福氏から全従業員六十五名に事情を説明、解散を申渡した處従業員等は法定の二週間分支給を要求、解散反對の氣勢を擧げ、社大黨石城支部と連絡して六日間朝以來不穩の情勢に立至つたので所轄植田署は急遽署員を現場に派して萬一の警戒に當る一方縣特高課の指揮を仰ぎ慎重を期してゐるので成行は注目されてゐる。因に同礦は京京南品川區五反田五ノ六人木村康一郎氏の個人經營で昭和五年以來發掘して來た全發區四十五萬坪のものである。

優勝旗

磐女で新調

磐女運動會呼び物の郡下女兒四百米繼走優勝旗は平第二校の獲得する處となつた爲め本年の優勝旗を東京高島屋に依頼新調したが鹽瀬地を真紅に染め中央に優勝の文字を月桂樹で包み金糸へりりとの楕型で眼を覺めんばかりの美しさである。

植田方部

郷土讀本

郡南植小學校よりなる第一區聯合教育會では今年尋常小學校上級兒童のために「郷土讀本」を編纂し十日頃發行、課外教授用に使用させること

入山落盤壓死

湯本町入山炭礦採炭夫茨城縣那珂郡戸田村生れ平山吉彦

今日 八日 報 豫 天

今晚は北の風曇 後雨模様 明日は北西の風曇り後晴

今日 八日 報 豫 天

今晚は北の風曇 後雨模様 明日は北西の風曇り後晴

今日 八日 報 豫 天

今晚は北の風曇 後雨模様 明日は北西の風曇り後晴

前六、三〇 基礎佛語講義 丸山順太郎

前七、〇一 朝の修養「選擇集」井川定慶

前八、〇二 婦人の時間「ステイプル・フアイバー」の話 棚橋啓三

前九、〇三 五物語「孤島の姉妹」伏見信子

前十、〇四 國民歌謡「お大和撫子」阿部幸次他 桃谷中繼

前十一、〇五 小學生尋四の時間 討論的對話劇「牛と馬」大阪學校放送研究會

前十二、〇六 小學生尋五の時間 對話劇「中央線め」となった

前十三、〇七 同讀本は前後二篇に分れ 鮫川の鮭魚、勿來の關跡 鮫川疏水その他郷土に即した物語が豊富に盛り込まれてあり農村教育の充實化として最も適切なものとして期待されてゐる

前十四、〇八 少年受刑者が 秋刀魚に出漁 小田原少年刑務所浦賀支所の少年達三十餘名は同所々属の「報國丸」に乗込み來る三十日小名濱港に來航同港を根據として約十日間に亘り秋刀魚漁を行ふ旨今七日平裁判所に通知あつた

前十五、〇九 裁判 一 東

前十六、一〇 上遠野村大字上遠野宇新町興行師椎名幸(三)大阪府河内郡牧野村大字坂同井上治三郎(三)青森縣西津輕郡鱒ヶ澤町本町一丁目伊藤優鶴谷タテ(三)双葉郡木戸村大字下小端大工職高野春雄(三)の四名は去月四日双葉郡大字下町齋藤信夫方で賭

前十七、一一 ぐり一東京市富士小學校職員並兒童

前十八、一二 後六、〇〇 お話「南極探險の想ひ出」白瀬蘆

前十九、一三 後六、二五 講演「博物館の使命」正木直彦

前二十、一四 後七、三〇 講演「税制改正に就て」山田龍雄

前二十一、一五 後八、〇〇 漫談「人生初年兵から後備まで」西村樂天

前二十二、一六 後八、三〇 俚語と工場 歌尼ヶ崎醬油醸造組合連中他

前二十三、一七 後八、四〇 落語「しわい」や「柳家小さん

前二十四、一八 後九、〇五 清元「六歌仙 容彩」清元梅壽太夫他

前二十五、一九 博を開張今七日平區西判事から賭博罪として椎名は罰金七十圓、井上、鍋谷、高野の三名は同二十圓宛に各略式命令を以て處分された

前二十六、二〇 △既報喧嘩の仲裁に入つた船主江名町遠藤信七氏を岩壁から突落した外前借詐欺等を働いた茨城縣多賀郡生れ目下任居不定漁夫篠原次男(三)に係る傷害詐欺事件の公判は今七日平區で野木判事係り氏家檢事立會の下に開廷檢事から懲役十ヶ月を求刑されたが判決言渡しは來る十日午前九時

前二十七、二一 平職界紹介所報告

前二十八、二二 ◇ 人を求める方

前二十九、二三 △探炭夫 卅五才迄 給料一圓

前三十、二四 △クリーニング職工 四十才迄 給仕込十五圓 通勤二十五圓

前三十一、二五 ◇ 職を求める方

前三十二、二六 △料理人 四十三才 高卒

前三十三、二七 △出前持 二十八才 高

前三十四、二八 △助手 十九才 高卒

前三十五、二九 △給仕 十五才 高卒



（上）
（下）
尾・至陽（書）

二四〇 開陽の大破

幕軍は敵のこもつた江差の要塞をさして進む、その時函館に居つた榎本君は開陽艦に坐乗して、これまた江差灣をさして進む、時は十一月の十五日の拂曉に江差に着したがこの日は大雪それに風がつよくしたがつて波も高い、この時江差の陸上を望遠鏡で見ながら人の影も見えぬ、又要塞もしづまりかへつてゐる、そこで町をこえたうしろの山を望んで砲弾を飛ばした、これは敵が居るか但しは居らぬかそれをさぐるためと何んの應へもなく山のふもとを町のもの二三人かけ行く姿が見えた、それでは敵は退却したもの相違ない、とそこで三十人あまりの陸戦隊をあげて偵察なましめたが要塞には一人も居らぬそれ故これもまた血塗らずして江差を占領した、ところへ陸軍が押しよせて来たが敵が居らぬために大いに失望した、それにしてもこゝに居つた松前志摩守は何れに退去したか又その兵はいづれに引きあげたかと町の者にてこの要塞に出入りをして居る商人に問ふ

「あなたがお出でになるといふことを知りまして、殿様は熊石に引きあげたのことでございます」夫を聞いて指揮官松岡四郎次郎が

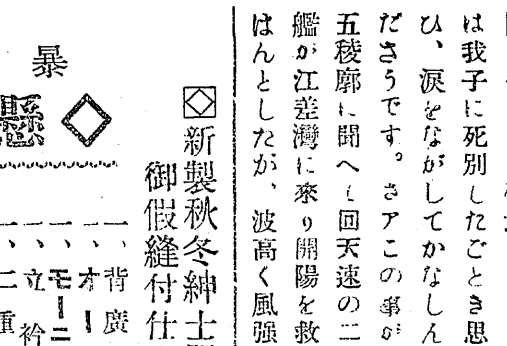


四 熊石まで逃げをつた

「夫はよく存じませんが殿様のお供をして熊石へ参つたものでございませう」

「さうですな、この海岸

「あなたがお出でになるといふことを知りまして、殿様は熊石に引きあげたのことでございます」夫を聞いて指揮官松岡四郎次郎が



四 熊石まで逃げをつた

「夫はよく存じませんが殿様のお供をして熊石へ参つたものでございませう」

「さうですな、この海岸

暴騰の前 秋の冬 洋服 懸賞 特付 福永洋服店

新製秋冬紳士服御詠 御假縫付仕立入念奉仕!

御注文一着毎に抽籤券進呈 (但シ金参拾圓以上)

特賞期日 九月十五日より 十二月三十日まで

抽籤表 昭和十二年一月十五日 厳正に抽籤施行

福永洋服店 末廣料理店前 電話二二八

たならば御沙汰次第わたくし共もはたらきます」と云つた、こゝにいふわけは土地の者は幕軍のために大いに便宜をはかりました。と云つた、こゝに悲しむべきことがある、幕軍に取つて大損害をきたしたことがある、それは何だといふに江差灣は泊碇いたし居つた軍艦開陽、風波はげしきために暗礁に乗りあげ果はかもめ島といふ島に吹きつけられて大破いたし、つひには破壊した、榎本君はボートに乗つて上陸したが和蘭陀留學中に彼の國の造船所にてこしらへたこの開陽が今こゝに破壊いたしたは我子に死別したとき思ひ、涙をながしてかなしんださうです。さアこの事が五稜廓に聞へり回天速の二艦が江差灣に來り開陽を救はんとしたが、波高く風強

く夫に暗礁多く近よる事が出来ないうちに、全く開陽はこわれまじした、據ところなく回天は函館に引つ返した之は幕軍にとつて大打撃です。

さて少兵隊長松岡四郎次郎は兵を率ゐて熊石をさして進む、その途中に館といふところに城をきづきこゝに松前兵がこもつて幕軍を食ひ止め様とする、この折土方歳三、星御太郎、永井護伸齊らの率ゆる兵もこの館に向つた、處が敵は城門を堅く閉し小高き所より大小砲を連發して幕軍をなやます、敵には大砲があるが幕軍にはない、夫がために近よれない、すゆと歩兵指圖役の越智一朗に伊奈誠一郎の二名が門の下をくぐり城内へおどり込んで門をばづしてさつと門をひらいた。

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町 南町一六(電話一七〇番)

喜多流 謠曲と仕舞の 稽古をお奨め致します 平町田町六九 電話一二七番

石炭 コークス 阿部石炭店 平驛前 電話三十七番

豆炭

一齒科一般 保存科補綴科 繼續架 工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科 一口腔外科 一レントゲン科

中野齒科醫院 平町田町(松月堂向ヒ) 電話五〇九番

院長 日本齒科中野惠次 日本齒科西川誠 醫學士

吉田眼科醫院 平紺屋町 電話六八番 醫學士 吉田久雄

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院 醫學士 鈴木正男 平町三町(電話五八番) 藤田女學校前

自炊のお需めに應ず 入院の便あり